

**第4回司法書士人権フォーラム**  
**『子どもの権利ノート～すべての子どもたちの夢と輝ける未来のために  
私たちができること～』開催結果報告**

**1. 企画趣旨**

現在、全国各地の児童養護施設には3万人を超える子どもたちが生活している。その背景や現状の課題について、子どもたちや施設の職員、卒園した方々のメッセージや体験談を得ながら検討していく。

また、これまで司法書士が関わってきた活動報告を踏まえて、児童福祉に関する法制度や法的支援の在り方、専門家等の役割、ひいては子どもたち一人ひとりが『自分を大切な存在』と思うことができるような社会について考えていくことが今回のフォーラムの開催目的である。

今回のフォーラムではこのような視点から、さまざまな家庭環境が原因で、児童養護施設に入所する子どもたちの現状を探ると共に、児童養護施設職員が直面している制度上の問題、法的な問題を確認し、その中で司法書士が果たすべき役割として未成年後見や、児童養護施設で行う法律教室などの活動についても検討した。

**2. フォーラム実施まで**

人権委員会において企画案を作成した後、企画趣旨をご了解のうえ、それぞれの立場から発言いただける方たちに基調講演、パネルディスカッションへの登壇を依頼した。当日までに、毎月開催の人権委員会のほか、基調報告およびパネルディスカッション登壇者の渡井さゆり氏、佐野優氏を訪問し、1回の打ち合わせを行った。

また、全国の児童養護施設の高校生と職員及び関連団体へアンケートを行い、約1400通もの回答が寄せられた。高校生からのアンケート回答用紙は、会場である日司連ホールの壁面にすべて掲示することとした。

また、本フォーラムは、広く一般市民を対象としているため、開催案内のリーフレット及びポスターを首都圏の教育機関や自治体・報道機関など広範囲に向けて作成・配布したほか、月刊誌や新聞のお知らせ欄で記事になるよう報道機関へ働きかけを行い、会場の司法書士会館周辺地域への新聞折り込み広告を実施するなど、積極的に広報を行った。

**3. 開催結果概要について**

- ・ 名 称 第4回司法書士人権フォーラム  
「子どもの権利ノート  
～すべての子どもたちの夢と輝ける未来のために私たちができること～」
- ・ 主 催 日本司法書士会連合会
- ・ 後 援 法務省人権擁護局、内閣府、東京都、日本弁護士連合会、  
全国児童養護施設協議会、全国青年司法書士協議会
- ・ 日 時 平成22年3月13日（土）午後1時～午後5時
- ・ 場 所 司法書士会館地下1階ホール（東京都新宿区本塩町9-3）
- ・ 来場者数 72名

- ・プログラム 午後 12時30分 開場・受付開始
- 午後 1時00分 開会・主催者あいさつ
- 午後 1時10分 基調報告（50分）
- 午後 2時10分 基調講演（50分）
- 午後 3時10分 パネルディスカッション（100分）
- 午後 5時00分 閉会

・内容（敬称略）

○基調報告

司法書士の活動報告

石井寛昭（日司連人権委員会副委員長）

是枝真紀（鹿児島県司法書士会）

児童養護施設を卒園された方からの現状報告

佐野優（社会的養護の当事者参加民間グループ「こもれび」）

児童養護施設関係者からのアンケート回答・メッセージ紹介

石井寛昭（日司連人権委員会副委員長）

佐野優（社会的養護の当事者参加民間グループ「こもれび」）

渡井さゆり（社会的養護の当事者参加推進団体「日向ぼっこ」理事）

○基調講演

「子ども家庭福祉の現状と課題～社会的養護を中心に～」

才村純（関西学院大学大学院人間福祉研究科教授）

○パネルディスカッション

コーディネーター：石井寛昭（日司連人権委員会副委員長）

パネラー：才村純（関西学院大学大学院人間福祉研究科教授）、

渡井さゆり（社会的養護の当事者参加推進団体「日向ぼっこ」理事）、

佐野優（社会的養護の当事者参加民間グループ「こもれび」）

- ・来場者への当日配布物：プログラム、基調講演用レジュメ、来場者アンケート、日向ぼっこ通信、こもれび通信、こもれびリーフレット、09年度版社会的養護の下で生活した私たちが考えるケアに関するハンドブック（日向ぼっこ）

- ・掲示物：高校生からのアンケート回答用紙1, 400通すべてを壁面に掲示

#### 4. 開催内容詳細

基調報告では、日司連人権委員会の石井副委員長より、本フォーラムの趣旨及び児童養護施設で行った法律教室についての報告がされ、鹿児島県司法書士会是枝真紀司法書士からは、氏が未成年後見人を経験した中で感じた課題等が報告された。更に児童養護施設に入所していた当事者や支援者が組織する「社会的養護の当事者参加民間グループこもれび」から、佐野優氏が現在の活動と児童養護施設での経験について発表された。

基調講演では、児童福祉について多くの講演実績を持つ関西学院大学大学院人間福祉研究科教授才村純氏にご登壇いただき、「子ども家庭福祉の現状と課題～社会的養護を中心に～」

をテーマとし、子どもを取りまく生活環境の変容及び児童福祉の制度・法的支援を中心に、制度が抱える課題や社会の役割についてお話しいただいた。

パネルディスカッションでは、才村純氏のほか、自身も社会的養護の当事者である「NPO法人社会的養護の当事者参加推進団体日向ぼっこ」理事の渡井さゆり氏、基調報告に登壇された佐野優氏にご登壇いただき、アンケート回答として寄せられた高校生からのメッセージを端緒として、児童養護施設の現状を共有し、子どもたちが望む支援についての政策論・具体的な救済方法論を展開した。